

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273600260		
法人名	医療法人社団 千葉医心会		
事業所名	グループホームスピリット		
所在地	270-1327 千葉県印西市大森2228-1		
自己評価作成日	平成29年9月9日	評価結果市町村受理日	平成29年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成29年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が楽しく安心して第二の我が家のように過ごして頂けるよう日々努力しています。基本理念の「地域に届け込んだ明るく家庭的な雰囲気を目指す」を実践できるよう、地域の方々との連携も大切にしています。医療法人の利点を活かして、入居者の健康面のサポートも医師や看護師と連携し、スムーズに行え、安心していただいています。入居者一人ひとりがいきいきと暮らしていく為の個別ケアは日々のミーティングや職員会議のケアカンファレンスで協力して実践しています。同法人には様々な介護施設があり、入居者のニーズにあった適切なサービスが紹介できます。系列の施設との交流もあり、行事やお祭りの開催など開催されています。地域の方々のボランティアも受け入れ、地元の幼稚園生徒の交流やご家族のご協力も得て、入居者の皆様の生活が充実するように尚一層努力をして参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR木下駅南口から徒歩で20分程、のどかな緑地の一角に立地し、自然環境に恵まれたホームです。近くに系列施設(介護老人保健施設等)があり、医療対応、研修、ボランティアの受け入れ、ヴィラ祭などの行事の連携に活かされています。また医療法人が運営しているので、利用者、家族にホームに対する信頼と安心感があります。
 食事は、利用者が自分の口で食べることが出来るよう食材を柔らかく煮炊きしており、ほぼ全員(平均年齢89歳)の利用者がお箸で食事をしています。また、彩り豊かなメニューは利用者の食欲を湧かせ、満足感や笑顔、英気を養う源になっています。
 施設長や職員は、利用者が楽しく安心して穏やかに過ごせるように、チームワークを発揮して理念に基づいた支援をしています。家族アンケートでも、「家族の話をよく聴いて柔軟な対応をしてくれる」と感謝の声が多くあり、利用者職員との笑顔溢れるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は「地域にとけ込んだ明るく家庭的な雰囲気を目指す」です。 日常生活の中で、家事などを通して、実践出来るように努力しています。	地域密着性を織り込んだ基本理念を、パンフレットに記載するほか事務所やリビングに掲示し、月1回の職員会議などで確認・共有し日頃のケアの中で実践するように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のボランティアの方が来所されたり、近隣の幼稚園との交流があります。 町内会のお祭りや、毎朝の散歩で近隣の方々と交流をしています。	町内会の行事には積極的に参加しています。習字、傾聴、訪問美容、スコープ三味線などのボランティアを受け入れ、系列施設共催の「ヴィラ祭り」には利用者、家族、近隣の住民も多数参加し交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症の理解をしていただける機会を設けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	こちらからの報告だけではなく、民生委員、町内会長、市の職員、家族、本人を交えて、いろいろなご意見や情報を頂き、相互に情報交換をしています。	会議は、市職員、町内会長、民生委員、隣人、家族、法人理事長、施設長等が参加し年6回奇数月に開催しています。テーマはその都度決めて意見交換を活発に行いサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	印西市介護相談員の受入れを月1回行っています。運営推進会議では、日々の状況報告、入退居の状況の報告等を行い、骨折事故等発生時は、報告書を速やかに提出し、再発防止のための助言を頂いています。	市の担当課とは常に連絡を取り合いアドバイスを貰っています。運営推進会議にも毎回出席があり、良好な信頼関係を築いています。介護相談員も毎月1名受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会、個別カンファレンスを行い、職員全員が身体拘束をしないケアを実践することができるよう、知識と技術を共有するよう努力をしています。	「身体拘束の理念及び方針」を掲げ、職員は県主催の研修会に積極的に参加しています。施設長は社内研修を実施し徹底を図っています。また玄関が道路に面しているため家族の了承を得て施錠していますが、拘束感を抱かせぬよう見守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するテーマで毎月の職員会議で勉強会をしています。全職員で知識を共有、確認し、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業や制度についての勉強会を行い、施設内だけのサービスに留まらず、必要な際には関係者と連携し、活用ができるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容変更の際には、書面でのお知らせと同時に、ご説明できる機会を設け、ご納得いただけるよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には必ず代表の家族にご参加いただいております。その際にいただくご意見を運営に反映しています。また、外部評価での家族アンケート結果も運営に反映させています。	家族については、来訪時や、運営推進会議、行事(ヴィラ祭)参加などで、意見・要望を聴き運営に反映させています。利用者については、毎月1名の介護相談員が訪れて話を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、職員の意見・提案を元に話し合いを行い、運営に反映させています。各事業所管理者間でも毎月の会議にて情報交換や共通課題の問題解決策を話し合い、運営に反映させています。	施設長は年に2回の面談の他、日頃の対応や職員会議の中で意見・要望を把握し運営に反映するように努めています。また職員との関係もよく、普段から気軽に何でも言える環境を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者の日々の状況報告により、代表者は職員の勤務状況を把握し、給与水準、勤務時間等、個々のやりがいにつながる職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での通常の勉強会や、系列施設の専門家による勉強会を開催しています。また、外部の研修への参加推進のため、交通費や参加費の補助も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は毎月グループホームの管理者会議に参加し、情報交換や共通課題への取り組みや解決策についての話し合いでサービス向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时、なるべく家族と一緒に本人にも来所していただき、その際に環境等も踏まえて、ご要望や不安、困っていること等、お聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、本人同様に家族からもご要望や不安、困っていること等をヒアリングをしています。また、電話相談でも詳しいお話をお伺いし、家族との信頼関係の構築にも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の相談に応じながら、必要に応じたサービスを提供できるようにしています。生活面、健康面、経済等の問題を把握し、他施設の相談員とも連携がとれるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを見極め、一方的な実施ではなく、寄り添いながら安心して家事などを行い、生活できる関係を作るよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を聞き、電話をしたり手紙を書いたりすることの支援に努めています。また、面会の要請もしています。かかりつけ医以外の病院への付き添いは家族が行います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前に大事にされていたものや日常使用されていたものをそのまま自室で使用して頂き、安心感を持っていただけるようにしています。また、いつでも面会に来ていただける雰囲気づくりに努めています。	年に数回から、月毎、週毎に訪ねてくる家族だけでなく近隣の友達、ボランティアを歓迎しており、家族と利用者の談笑や、外食を共にする環境を作って支援しています。利用者の笑顔が見られるように、電話や手紙を出しやすくなるような手助けも行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、良好な関係が築けるようホールでの席を配置したり、掃除や食事準備・片づけの分担をして協力し、関わりあう環境づくりに努めています。大きなトラブルにならないよう、常に皆様の様子に配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の施設にお伺いしたり、お電話にて生活の様子を伺い、必要に応じてサポートができるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接希望を伺ったり、何気ない会話を通して意向を引き出せるよう心がけています。困難な場合には生活歴や様子から思いを読み取り、ご家族から聞き取りをし、職員間で検討して入所者本位のケアができるよう努めています。	利用者の動向に注意し、いち早く対処ができるようにさりげなく寄り添っています。人によっては、筆談や耳元で話しかけ、利用者が混乱しない様にコミュニケーションが成り立つ工夫をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報や、以前利用していた機関からの情報があれば参考にし、本人の趣味や意向が汲み取れるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に入居者の状況や状態を把握することを心掛け、毎日の朝礼時に前日までのそれぞれの心身状態や留意点について検討し、対応を引き継ぐなどしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送り、月に一度の職員会議を中心に課題やケアのあり方について意見交換をしています。また、面会の際に家族に意見を頂いています。それらの内容を踏まえ、反映させた介護計画を作成し出来るよう努めています。	利用者や家族の声を聞き逃さない様にセンター方式で記録して、申し送りや月一回の職員会議で共有し、利用者の個別介護計画書に反映するようにしています。特変がなければ、6か月ごとに関係者に聞き取り、モニタリングを行い、1年で総合的に見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々ケース記録や連絡ノートに毎日の様子や変化、共有事項を記録しています。それを職員間で共有し、日々のケアやプランの見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	頂いた要望にはできる限り対応できるよう、主治医、協力関係機関を活かして支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎朝の散歩を通して地域の環境や四季を楽しんでもらったり、町内会のお祭りに参加し、地域の方々の関わりをもっています。また、ボランティアの大正琴の演奏や、地域の催し物に参加し、楽しみを持っていただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者がかかりつけ医の受診を希望、もしくは必要な場合には、速やかに受診ができるように支援しています。かかりつけ医とは迅速な連携が取れるよう日頃から関係構築に努めています。また、週1回の医師による回診も実施しています。	往診医が週一回来訪し利用者の健康を管理しています。歯科、眼科など他科受診の場合は、家族が付き添いますが、必要な時は職員が通院支援を行っています。医師、訪問看護師、家族の連携が良くとれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホーム向かいの同法人、介護老人保健施設GH総括部長の看護師に日々入居者の状況報告をし、状態把握をしてもらっています。訪問看護が週1回あり、細やかで適切な看護を受けています。また、受診が必要な場合の支援も受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の家族と十分な話し合いを行い、見舞いに行くなど、本人が安心して療養できるように努めています。入院中の状態を医師や相談員、家族と共有し、退院後に適切なケアが受けられるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、本人、家族より重度化した場合や終末期のあり方について意向を聞き、方針を話し合っています。病状や身体・精神状態に変化のある場合はその都度説明をし、必要な際には医療関係者も含めて話し合い、意向に沿えるよう支援に取り組んでいます。	終末期の方針は、本人・家族の意向を聞き、医師、看護師、家族と、その都度確認して合意しています。職員の研修も定期的に行い、利用者の望む終末期医療が整う様にしています。研修を受けた職員は、必ず全職員に報告することになっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人のメリットを活かし、すぐに医師や看護師と連携をとれる体制をとっています。また、職員も研修や勉強会にて知識を身に付け、慌てずに対応が出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選任するとともに、定期的に消防署の立ち合いも含めた訓練を行っています。運営推進会議には地域の方にご参加いただき、災害時に協力できるよう関係を築く努力をしています。	消防署立会を含め、年2回の火災避難訓練を実施しています。スプリンクラー、自動通報装置など必要な防火設備は整っており、緊急連絡網、対応表なども掲示されています。備蓄は5日から7日分に増やしました。	運営推進会議メンバーの協力関係は築かれていますが、高齢者が多いので、消防署と町内会(近隣の住民)の連携による合同の災害訓練の実施が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートな空間、特にトイレや浴室、居室は必ずロックするなど、プライバシーの尊重に気を付けています。また、職員の何気ない言葉で傷つけてしまうことの無いよう努めています。	利用者のプライバシーが確保できるように、職員の言葉や態度に気を付けています。入浴やトイレなどの1対1の個別対応が、利用者の心に安心をもたらしています。表情をみてさりげなく必要な声掛けができるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を聞いたり、様子を伺い、思いや希望を伝えやすい環境づくりを心掛け、職員全員で入居者の自己決定のサポートに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	楽しみを持ちながらゆったりと居心地よく過ごせるよう、入居者一人ひとりの性格、趣味、嗜好、生活ペースを把握して支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の化粧ボランティアの来所や、訪問美容院での整髪等で、身だしなみやおしゃれに関心にならないようにしています。職員も配慮した声かけを心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じて、できる食事の準備や片づけをして頂いています。食事内容は四季を感じて楽しんでいただけるように心がけています。	摂取量、嗜好、食形態に合う食事の提供をしています。記録を執り、好み、口腔・咀嚼機能をみて食事に反映しています。行事食、誕生日のお楽しみメニューも利用者に喜ばれています。利用者の現存する力を洗い物や片付けに発揮して貰っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量の記録を実施し、脱水や低栄養の防止に努めています。日々の室温・湿度も考慮し、一人ひとりの状況に応じた水分摂取量や食事の形態、禁忌、嗜好、摂取力も踏まえ、総合的に支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせて、毎食後の口腔ケアを実施・支援しています。職員全員で口腔ケアの重要性を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、職員の都合での誘導ではなく、本人のリズムに合わせた事前の誘導ができるよう心がけています。必要な場合は排泄回数や状態を記録して把握しています。	利用者の排泄環境を整え、排泄機能、身体機能に合わせてトイレ誘導や介助を行っています。排尿回数や体調を見ながら、食事や運動も取り入れた支援を行い、利用者が混乱しない様に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの歩行能力に合わせて毎朝の散歩を実施し、適度な運動で便秘の予防に努めています。また、毎朝乳製品の提供もしています。お茶・コーヒー・紅茶など、飽きない工夫をして水分摂取もしていただいています。その上でも便秘がちな方には、医師に相談し、便秘薬の服用と指示をいただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全に入浴できる時間において、本人の希望を第一に考え、それに沿った入浴方法で支援しています。順番を忘れてしまう方もいるので、ボードに表示して認識してもらうよう工夫しています。	入浴は週2回、1対1の介助で30～40分ゆっくり入ることができ、職員とのコミュニケーションも弾んで、入浴を楽しめるようにしています。利用者によって、自分で洗えることを忘れてほぼ全介助になる人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や掃除、レク、体操等で日中適度に身体を動かすことを心掛け、本人の生活リズムを尊重しながら、あまり早い時間に就寝しないよう呼びかけ、夜間に安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、及び内服の方法、副作用について理解しており、配薬について誤薬がないように職員2人以上で確認をしています。症状の変化を観察・確認し、重要な変化は必ず報告を行います。便秘薬のこまめな調整も実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者全員これまで主婦として家事をされてきた方たちなので、積極的に家事にかかわる役割を担って頂けるように支援をしています。また、行事やボランティアの方に来ていただき、おしゃべりや歌などに触れ、交流ができる機会を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見・梨狩り・外出会の行事のほか、本人の希望に応じ、散歩や日光浴などの付き添い支援は日常的に実施しています。また、職員の外出時同行して頂くこともあります。家族との外出支援もしています。	毎日15～20分散歩できるように支援しています。花見や秋の紅葉、梨狩りや盆踊りなど季節行事を計画し出かけています。家族と出かけたり、職員と利用者で同行したり、人と触れ合う祭りや園児との交流など、外部に触れる機会を多くするよう支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う喜びを感じて頂けるよう、家族と計画の上で、お買い物をしていただけるよう支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援は常に希望時に行っています。切手の提供、投函援助、電話の取次ぎも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・食堂・居室に季節感のある飾りや行事の写真、お花を飾って明るさや季節感を取り入れています。また、毎日掃除と換気を入居者と職員で共同で行い、清潔で居心地の良い環境を保つよう心がけています。	明るい食堂兼リビングは、厨房と一体になっており匂いや音で生活感があります。季節の花が飾られ利用者が快適に過ごせるように配慮されています。壁には習字や行事の写真が多く貼られ季節を感じます。加湿器や空気清浄器を置き環境にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格に合わせて食卓を気持ちよく過ごせるメンバー同士での配置をするよう考慮しています。自然とゆったり気持ちよく過ごすことができていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前から使用していた家具や小物を居室でも使用して頂き、馴染みのある落ち着いた居室になるように工夫しています。季節に応じたお花も飾っていただいています。	広くて清潔な居室は、エアコン、洗面台、照明、クローゼットが備え付けです。利用者は家族の写真、テレビ、机、ダンス、人形等使い慣れた馴染みの物を持ち込み、自宅に居るように居心地良く過ごしています。入口には誕生日おめでとうや笑顔の写真が飾られ、ホームの温かな気配を感じます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が出来る限り自立した生活ができるよう、日常動作を中心に安全に十分注意した手すりの設置や段差の撤去をしています。失見当のある方には、トイレの表示を大きく分りやすくしたりの工夫もしています。また、転倒防止用の靴を履いてもらうなど、一人ひとりの力を理解しつつ見守り、支援しています。		